厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
（分担研究報告書）

全国がん登録の利活用に向けた学会研究体制の整備とその試行，臨床データベースに基づく臨床研究の推進，及び国民への研究情報提供の在り方に関する研究

研究分担者　袴田健一・弘前大学大学院消化器外科学・教授

研究要旨（がん臨床データベースと専門医制度　－消化器外科領域から見た悉皆性向上への効果と精度管理－）
臓器がん登録は詳細情報に優れるものの悉皆性と予後情報の取得が課題である。我が国の大規模臨床データベースであるDPC，National database，全国がん登録，National Clinical Database，臓器がん登録の特性を比較した上で，データベース登録の悉皆性と情報の質を高める方略として，外科系専門医制度との連携の効果と課題について検討を加えた。

A．研究目的

我が国の大規模臨床データベースであるDPC，National database（NDB），全国がん登録，National Clinical Database（NCD），臓器がん登録の連携による高品質データベースの構築，ならびに臓器がん登録の悉皆性向上を図る方略として，専門医制度との連携運用の課題について検討する。

B．研究方法

我が国の大規模臨床データベースであるDPC，National database，全国がん登録，NCD，臓器がん登録の特性を比較した上で，外科系専門医制度によって悉皆性が担保されている NCD と臓器がん登録の連携の現状と課題について検討する。また，全国がん登録と臓器がん登録，NCD のそれぞれの登録業務の実態について調査し，業務連関やデータベース相互の補完・連携の可能性について検討する。

（倫理面への配慮）

すでに公表されている匿名化情報を用　いる。開示すべき利益相反なし。

C．研究結果

NCD登録データは，外科基本領域，複数のサブスペシャルティ領域，さらに専門的な領域の専門医制度により登録システムが多重化され，全手術の97%をカバーするまでに悉皆性が担保されていた。NCDとDPCならびにNDBデータの連携では，二次医療圏別外科手術ならびに手術に関連するがんの詳細情報との関連解析が可能であり、大規模臨床データとの連携の有用性が確認された。

また、臓器別学会の専門医制度とのNCDとの連携も進み、乳がん登録でカバー率は70%と最も高く，長期予後の詳細情報の入力が進んでいた。一方で、任意の登録形式では悉皆性は低値にとどまった。

D．考察

外科系専門医との連携で運用されるNCDは極めて悉皆性が高く、他の大規模臨床データベースとの連携によって、臨床上有用なデータ解析が行われていた。手術対象となるがん詳細情報の登録付加を図る点で、専門医制度との連携は有用と思われた。一方、外科以外の診療科が治療の主体となる疾患（がん腫）、手術対象外のがん種の登録はNCDでは困難であり、新たな登録のインセンティブを探求する必要がある。ただ、いずれのデータベースも予後情報の付与が困難であり、悉皆性の高い全国がん登録との連携、さらには医療版マイナンバーとの連携が望まれる。

E．結論

大規模臨床データベースの連携構築の一方略として、専門医制度との連携は悉皆性の高いデータ入力の観点から有効と考えられた。

F．健康危険情報

特になし

G．研究発表

1.　論文発表

消化器外科専門医制度２０２０年カリキュラム改定の概要と新専門医制度　臨床外科 2019;74(9):1098-103

2.　学会発表

特別企画２「新専門医制度の開始により見えてきたその現状と課題」　第 119 回日本外科

H．知的財産権の出願・登録状況
(予定を含む)

1. **特許取得：なし**
2. **実用新案登録：なし**
3. **その他：なし**